

教 育 長 様

代表者 校園名： 大阪市立本田小学校

公印

校園長名： 錢本 三千宏

電話： 6581-1531 F A X： 6581-3194

申請者校園名： 大阪市立本田小学校

職名・名前： 首席教諭 流田 賢一

電話： 6581-1531 F A X： 6581-3194

代表者校園 事務職員名： 大谷 由香

平成 28 年度 「がんばる先生支援」個人・グループ研究 報告書

◇ 平成 28 年度 「がんばる先生支援」個人・グループ研究について、次のとおり報告します。

1 研究コース：
個人研究コース ・ グループ研究Aコース ・ グループ研究Bコース
継続研究： 継続研究 (2 年目 ・ 3 年目 ・ 4 年目)
2 研究テーマ
<p style="text-align: center;">「世界トップレベルの学力・人間力強化」をめざして</p> <p>◆ 研究内容のキーワード： アクティブラーニング 協働学習 コミュニケーション コラボレーション 世界トップレベルの学力・人間力 新しい能力観 21 世紀型学力 ICT を活用 学習意欲向上</p>
3 研究目的：
<ul style="list-style-type: none"> ○ 新しい能力観に対応できる児童の育成 ○ 21 世紀型学力を身につけるための学習内容・方法の探究。 ○ 自ら学ぶ意欲や学ぶ手法を獲得する児童の育成 ○ 教科指導力を向上し、アクティブラーニングなどの新しい教育方法の推進 ○ ICT の活用による授業での知識活用場面の充実 ○ 先進研究校の公開授業・講演会を企画・運営し、大阪市全体へ拡大
4 取り組んだ研究内容：
<p>本校の研究を伝えるために、ICT 公開授業研究会を年間に 2 回（2016 年 10 月 7 日、2017 年 2 月 22 日）実施した。先進的研究校として、取り組んだことを校内研究テーマと連携して研究したことを授業実践とともに発表した。公開授業では、本校の取り組んできたことを具現化したものを示し、研究発表では明らかになったことを研究部から伝え、講師先生から講演をしていただいた。大阪市のみならず、大阪府からの参加者も得て、多くの先生と研究を進めてきた。</p> <p>筑波大学附属小学校の先生方と連携した研究会を実施し、教科の本質を見直す授業研究会となった。多くの先生方と、公開授業を通して話をする事ができた。</p> <p>このような研究を進めるためには、研究会メンバーが授業像についての共通理解がないと話が深まらない。共通土壌として、筑波大学附属小学校の授業を見学した。授業見学した教科は、国語、算数、社会、理科、音楽、外国語などである。所属メンバーの専門性に合った教科を見学し、その後校内で伝達講習を行った。上記の筑波大学附属小学校の先生からの師範授業も教員の授業イメージを揃えるために欠かせない取り組みである。ここに他校の先生方も招き、大阪市のみならず他府県の先生方とも学ぶ機会を作ることができた。</p> <p>アクティブ・ラーニングの授業設計を学び、実践してきた。そのために、先進的研究校に視察に行ったり、公開授業に講師先生をお呼びして研修を重ねてきた。アクティブ・ラーニングの研究発表の場として、区の教員研究発表（2017 年 1 月 18 日）で校内研究と連携した内容を発表した。</p>

5 成果・課題：

2年間の「がんばる先生支援」研修助成を受け、本校の児童をテーマのように「学力」と「人間力」強化に向かつての育成が進んできたと言える。児童は、落ち着いて学習に取り組み、全国学力・学習状況調査やCRT（数研式標準学力検査）に結果でも国語科・算数科ともに全国平均を上回っている。（昨年度は初めて平均を下回った）また、児童への「学校生活アンケート」（本校実施）では、**学校生活に対する肯定的な意見**が向上している。保護者への「学校評価アンケート」では、児童の学校生活に対する満足感や学校への信頼は増し、学校教育活動への理解が進んだと考えることができる結果が出ている。これは、教職員の不断の研修の成果により授業構成を変化させたことの結果であろう。「**プレゼンテーション**」「**対話・討論**」「**観察・実験**」を重視した授業を実施し、教員研究会を実施してきた。研究のパラダイム作りのため、先進的研究校への視察や講師を招聘しての研究会を実施しすることができた。本校は、ICT先進的研究校として教科教育に力を入れてきた。情報化社会の中で、学校教育に情報機器を活用した効果的な学びを提案してきた。

本校の現状と課題、大阪市教育振興基本計画を踏まえ、日本経済団体連合会「**21世紀を生き抜く次世代育成のための提言**」（※1）やノーベル経済学を受賞したジェームス・ヘックマン教授の「**社会で活躍するためのBIG5**」（※2）を生かした研究を続ける。また、Fadel教授が主張する「**21世紀型カリキュラム**」の「学力」「スキル」だけでなく3つ目の「人間性」を取り入れた3つの力を立体の3つの辺と捉え、調和のとれたバランスのよい成長ともつながる研究の方向性である。そのために、本校児童の**粘り強く学びに向かう姿勢（学力）、21世紀型スキル（スキル）、友達とつながる力（人間性）の育成**を続ける。

今年度は、本研究テーマを深めるために2点について深く研究を進める。①**アクティブ・ラーニングを取り入れた授業**②**学級づくりと学力・授業の関係**を明らかにするである。前者のターゲットは教師の指導力向上である。新学習指導要領の重要改革を先行実施し、児童の主体的・協働的な学びを研究し提案する。児童の学習意欲向上につながり、知識・理解の習得（**何を知っているか**）からコミュニケーションし、考え探求する姿（**知っていることをどう使うか**）へと成長させる。他者と関わり合いながら、学びを深めるため思いやりがあり、バランスのとれた姿（**どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか**）をまとめる。後者の学級づくりと学力・授業の関係は、前者の成果に焦点をあてアンケートにより調査することである。アクティブ・ラーニング授業評価（教員）、自己評価（児童）（※3）を実施する。

①アクティブ・ラーニングを取り入れた授業は、早稲田大学教職大学院教授 田中博之先生に学期に1回本校の授業を見ていただき、実践を元に次期学習指導要領で求められる内容を講演していただいた。今までの授業と何が変わるのか、何が変わらないのかを講演の中で共通理解できるようにした。本校が今まで取り

組んできた内容は、次期学習指導要領が示す内容と同じ方向性を向いていることがわかったことも成果であった。それは、講師の田中教授からも「授業の中で、

	肯定	否定
子どもが楽しく学習していたか	100%	0%
子どもが意欲的に進んで活用していたか	100%	0%
子どもが集中して取り組めたか	100%	0%

表1 参加者アンケート（大阪市教育センター作成）

児童が表現し学ぶ姿は次期学習指導要領で求める姿そのものである」と評価していただいた。また、参観者からのアンケートからも、本校がめざしている授業に肯定的意見（表1）を多くいただくことができた。本校教員の授業への意識は、筑波大学附属小学校へ授業見学に行くことにより、大きく変化することとなった。

（表2）その変化とは、今までの授業を全く変えようというのではなく、自分が大切にしてきた授業の中に学んできたエッセンスを付け加えるというものが多かった。例えば、児童への声かけ、問

	肯定	否定
充実した研修でしたか	100%	0%
授業の中で活用したいことはあるか	100%	0%

表2 本校教員アンケートの結果

い返しの発問、板書などである。「児童が生き生きと学ぶことができるのは、教師の問い返しにより、全員が学ぶ環境になっているからだろう」「全員が参加するために、児童へのプラスの声かけを小刻みに行なっている」という感想を得た。経験の浅い教員からベテランの教員まで、全員が参加して学びが深まったことは、所属メンバーの授業を見る目や授業観を高めることにつながったと言える。②については、アクティブ・ラーニング自己評価アンケート（※3）年間2回行い、児童が成長を感じられるようにした。

課題は、授業づくりの改善に取り組んできたため、次年度は学習評価とカリキュラム・マネジメントの充実に取り組んで行きたい。

※1「21世紀を生き抜く次世代育成のための提言」とは、学力だけに偏った児童の育成ではなく、人間性の育成（志と心）・困難を克服しながら目標達成する力（行動力）・深くものごとを探究し考え抜く力（知力）をバランスよく育成すること。

※2「社会で活躍するためのBIG5」の中で、周りの人に合わせて人間関係を構築できる（協調性）・今までの経験に固執せず、新しい経験や知識を追い求める（経験の開放性）は協働した学びには不可欠である。

※3 早稲田大学教職大学院 田中博之教授の調査 参考文献「アクティブ・ラーニング実践の手引き」

6 研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。

日程 平成28年 6月27日	場所：大阪市立本田小学校	参加者数：約 300名
平成28年 10月7日	場所：大阪市立本田小学校	参加者数：約 120名
平成29年 1月18日	場所：大阪市立本田小学校	参加者数：約 200名
平成29年 1月23日	場所：大阪市立本田小学校	参加者数：約 200名
平成29年 2月22日	場所：大阪市立本田小学校	参加者数：約 100名